

## イゾルデ

薄く射し込む朝の光は  
ただひとり枕を抱く私には眩しすぎる  
次第にふくれ上がってくる　　ざわめき  
既に人々は一日の営みを始めているのに

昨夜の記憶はもう溶け去り  
今残っているものは、私の想いだけ  
肌触りや、慄えや、声や・・・  
この想いが、それらの記憶とともにあるのなら  
この朝もまた違っていたはずなのに

今日ひと日、どうやって始めればいいのか  
どうやってベッドから起き出せばいいのか  
この暴力的な昼を前にして！

毛布をかぶってさえ  
枕に顔を押し付けてさえ  
明るさが私を襲う  
そして想いだけが私を締め上げてゆく

ああ、太陽よ、疾く駆け去れ  
あの人に抱かれている時のみ  
私の想いが身を引く時なのです  
夜のしじまの中でのみ  
私は立ち上がることができるのです

(1999.12.30)